



学びの直送便



小・中・高を「つなぐ」外国語教育の実現へ！

新しい学習指導要領において小学校では高学年の外国語教育が教科化され、高等学校では「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の科目が新規に設定されるなど、グローバル化する社会に必要な資質・能力を育成するため、外国語教育が大きな変革の時を迎えています。「学びの直送便」では「小・中・高を『つなぐ』外国語教育」をテーマに総合教育センターの研修講座・出前講座を紹介します。

小中をつなぐ外国語授業づくり講座

-コミュニケーション能力の向上を図る- 10/29

講師：関西大学 教授 竹内 理

小中をつなぐ外国語授業づくり講座

-単元を見通した授業デザインを考える- 11/5

講師：近畿大学 教授 田邊 義隆



竹内理 教授

小学校と中学校の外国語教育について、学びの円滑な接続が重要視されています。

10月29日には関西大学の竹内理教授を講師に迎え、実践発表に対して指導助言をいただき、学力の3要素を踏まえた小中の接続や、コミュニケーション能力の向上を図る授業づくりについて講義いただきました。知識・技能を切り離さず、「分かったこと」を「できること」にしていく方法や目的・場面・状況といった必然性を意図した授業づくりの重要性について学びました。

11月5日には近畿大学の田邊義隆教授を講師に迎え、実践発表への指導助言をいただき、小中の接点を踏まえた単元構想や授業づくりについて講義いただきました。一貫したねらいに基づくゴールをイメージした授業づくりの在り方やコミュニケーションを意識した言語活動の重要性を学びました。



田邊義隆 教授

小・中・高  
出前講座

中学校・高等学校外国語科教育講座

-即興型ディベートを授業に- (北部) 10/12

講師：大阪府立大学 准教授、PDA 代表理事 中川 智皓

新しい学習指導要領において、高等学校の外国語教育ではディベート、ディスカッション、スピーチ等を授業でいかに扱っていくべきかが、重要なポイントになっています。

今回の講座ではディベート実践の第一人者である、大阪府立大学の中川智皓准教授を講師に迎え、ディベートを実践するためのポイントを講義いただきました。

50分の授業時間の中でディベートを実践する方法として、フォーマットやルールに沿って役割を分担することや、全員が必ず発言する機会をもつことについて話していただきました。また、「発言・態度の評価」と「課題の指摘」の二つのバランスの取り方等、具体的なジャッジの方法を学びました。



中川智皓 准教授



出前講座「小学校外国語教育講座」様々な要望に対応した内容で実施中！



学習指導要領の移行期間のスタートに伴い、各小学校において第3～4学年の外国語活動がはじまり、第5～6学年には「読むこと」「書くこと」の学習も始まりました。

本年度の出前講座「小学校外国語教育講座」では、各学校や機関からの要望に合わせて内容を工夫し、右のようなプログラムを実施しています。



- ・新学習指導要領の5領域の確認
- ・文字指導を含む評価についての見直し
- ・高学年のスマールトークの取り入れ方
- ・新教材に基づいた活動の工夫

## 特集!!

# 教室環境から取り組む「学級・授業づくり」

### 環境が人をつくる

#### 学校、学級は人が育つところなのである

前号(109号)の『特集!!』では『学級づくりのキホン』として「学級目標」に焦点を当てました。今回は「教室環境づくり」についてお伝えします。

児童生徒にとって、**教室は学校生活の大半を過ごす大切な「場」**です。整った教室環境が児童生徒の心の安定を図り、児童生徒が落ち着いた学校生活を送ることにつながります。皆さんの学校の教室環境は、物的な視点及び精神的な視点から見て、整っているといえるでしょうか。

年度当初に教室環境の方針を立て、具体的な取組を展開していきます。担任と児童生徒の発想を基に方針をつくり、教室環境を整えることが大切です。教室環境の保全面については、担任の点検はもちろんのことですが、係活動や当番活動など、学級の組織を生かして児童生徒自らが点検し、環境の保全を行う力を育てたいものです。

府内の学校には、児童生徒の学習につながる教室環境になるよう、担任が工夫している学校もあります。また、特別支援教育や防災教育等様々な観点からも環境づくりの工夫がされています。

こうした様々な工夫を参考にして、教室環境からも「学級・授業づくり」に取り組んでみましょう。

#### 毎時間の教材・教具を掲示

児童生徒が自ら既習事項を振り返り、未習の問題に向き合おうとする姿勢を引き出す。

#### 児童生徒のノートのまとめ方の例を掲示

互いにノートのまとめ方を学び合うとともに、互いのよさを認め合おうとする姿勢を育てる。

## 府内の学校に見られる 教室環境の工夫

#### 話し方や聴き方の方法を掲示

つばやきなども含め、様々な受け止めの方法を掲示し、互いの考えを受け止め、伝え合う雰囲気をつくる。

#### 掲示物を教室の横面や後ろ側に掲示

児童生徒の視覚情報の量を調整し、集中しやすくなるよう工夫する。

#### 整理整頓で防災教育

「机の横に荷物を置かない」など整理整頓を通して、災害時の避難経路の確保など防災教育につなげる。

### 連載「カリキュラム・マネジメントのススメ」第4回

## マネジメントの第一歩、「目標設定」のポイント!

「カリキュラム・マネジメントの概要」「学級づくり」「3つの側面」と続いてきた連載「カリキュラム・マネジメントのススメ」。第4回のテーマは「目標設定」です。

カリキュラム・マネジメントに限らず、**様々なマネジメントにおいて最も重要なポイントのひとつが「目標設定」**です。有効な目標の設定方法として「**SMART**」という法則があります。

学校には「学校教育目標」「学年目標」「学級目標」など、様々な目標が存在します。

スローガンとして普遍的な理想像を示す目標もちろん重要です。しかし、同時に現状や実態に対して柔軟かつタイムリーに作成する目標、様々な取組の評価につながる目標もマネジメントには不可欠です。



<b>S</b> pecific	具体的・焦点化した
<b>M</b> easurable	測定・検証可能な
<b>A</b> chievable	達成可能な
<b>R</b> elevant	価値観に沿った
<b>T</b> ime-bound	期限が明確な

※SMARTのそれぞれの文字に何を当てはめるかについては多様なバリエーションがあります。今回は奈良教育大学の赤沢早人教授作成の講座資料を参考にしました。

2学期も終盤に差し掛かりました。実践を振り返って、年度当初の目標にどの程度近づいたのかを評価するとともに、目標そのものを評価し、見直してみましょう。

先生方が「**こう育ってほしい**」と願う**子どもたちの姿**を「SMART」の法則を使って形にしてみてください。